

令和2年度 第1回 横浜市地域包括支援センター運営協議会 議事要旨

日時	令和2年6月11日(木) 午後3時00分から午後3時30分まで
場所	市庁舎18階 みなと1・2・3会議室
出席者	山崎会長、小倉委員、小林委員、佐藤委員、杉山委員、武安委員 谷村委員、辻委員、長場委員、中村(香)委員、西田委員、柳井委員、 山岸委員、山口委員、山田(初)委員、山田(真)委員 (16名)
欠席者	延命委員、小園委員、中村(美)委員、吉田委員 (4名)
開催形態	公開(傍聴者2名)
議題	1 令和2年度第1回市レベル地域ケア会議
決定事項	1 独居高齢者等への支援について、委員から意見を聴取した。

議題(1) 令和2年度第1回市レベル地域ケア会議	
事務局	資料説明 資料1 令和2年度第1回市レベル地域ケア会議について
佐藤委員	<p>高齢者の男性には、地域活動団体の会長を任されるなど、地域活動を担い盛り立ててくれる方も多い。一方で、地域に出てこない方もいて、地域への関わり方が両極端になっている状況があるように感じる。</p> <p>例えば、企業と連携しながら、会社の定年退職前の方に対して、地域に少しずつ目を向け地域を知ってもらうような、地域デビュー講座などの仕掛けがあると良いのではないかと。</p> <p>現在、地域の企業において認知症サポーター養成講座を実施し、地域を見守る目を増やせるよう取り組んでいるが、企業で働いている人との接点はまだまだ持っていない。地域を見守る目、という意識醸成だけではなく、講座を通じて地域と自分自身との関わりも考えるきっかけとなると良いと思う。</p>
武安委員	医療機関は、自主的に企業等と連携して独居高齢者支援をする、ということは難しいが、相談機関等から積極的に声をかけてもらえれば支援はできる。
長場委員	住民から相談があれば、いくらでも解決に向けた方法が考えられると思う。どこと連携するのは、互いの情報共有の中で広がっていくことかと思う。
山崎会長	住民がうまく専門職を地域に引き出す関わり方ができると良い。
柳井委員	<p>専門職を地域に引き出すこともだが、様々な分野に特化した企業の活用も考えられるのではないかと。</p> <p>一つの企業での実施は難しくても、企業には連合等の横のつながりがある。この横のつながりを使うことで、何か連携して行えることがあるのではないかと。</p> <p>プロボノのような、これまでのビジネス経験が活かせる取組も、特に男性に対しては良いと思う。</p>
山田(真)委員	薬剤師会では認知症の講演会を毎年開いていて、認知症サポーター養成講座の中身も内容に盛り込んでいる。薬局では独居高齢者と関わっている薬剤師も多いので、連携できることがあるのではないかと感じる。

杉山委員	<p>昨年は約 30 人の独居高齢者宅を訪問した。「地域に出てこない高齢者を連れ出してほしい」といろいろな方から言われるが、実際は訪問して声掛けをしたとしても、連れ出すことは難しい。例えば先日訪問した独居高齢者の男性は、「家事が楽しいから家にいる。いろいろなところに行かなくても元気に過ごしている」とのことで、一人でも楽しく過ごしている様子だった。</p> <p>元々地域に出てくる方はいろいろな地域活動に出ているし、出てこない方は一人で過ごすことを楽しんでいる様子。なので、地域に出てこない独居高齢者宅には、なるべく訪問で対応するようにしている。他にも、先日訪問した男性の独居高齢者に、男性の方が地域と関わるのが難しいので、男性の独居高齢者の集会を行ってほしいと要望を受けた。今後検討していきたい。</p> <p>訪問している実感だと、高齢者の約 3 分の 1 は地域活動に出でず、男女別だと男性の方が出てこない印象。介護保険運営協議会議題 2 で説明のあった高齢者実態調査も、男女別に集計するといろいろなことが分かるのではないかと思う。</p>
西田委員	<p>孤立している高齢者の地域活動の参加を促すために、訪問はひとつの手段だが、SNS の利用も良いのではないかと思った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、自宅にすることが増え、SNS で交流するきっかけになった。緩やかな働きかけのひとつとして SNS を住民間で活用できると良いのではないか。</p>
杉山委員	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、民生委員も個別訪問を控えることになり、今は電話で安否確認している。電話をかけて喜んでくれた高齢者がたくさんいる。メールでやりとりしている高齢者もいる。訪問だけではない見守り活動を工夫している。</p>
山崎会長	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る「新しい生活様式」が、独居高齢者等への支援に対するヒントになっている。</p>
中村（香）委員	<p>市社会福祉協議会では、企業や労働組合から、金銭や車椅子等の物品を寄附してもらったり、地域貢献に関する相談を受けたりする等のつながりがある。</p> <p>地域貢献への意欲が高まっている企業もあり、社内プロジェクトを立ち上げて、会社の強みを活かした活動を提供してくれたところもある。</p> <p>企業の地域貢献活動というと、以前は大きな公園や道路の清掃が多かったが、今は各企業の専門性や強みを活かす活動が増えている。企業から相談を受けた際も、強みを活かした地域貢献活動につながるよう、働きかけを始めているところである。</p>
小倉委員	<p>社会福祉法人は、社会貢献の実現のために、いかに社会資源とつながれるかが大事だと思う。地元では、区社会福祉協議会の専門機関部会が基盤となり、区内の社会福祉法人や施設が構築したネットワークがある。多岐にわたる一人ひとりのニーズに応えられるような、専門性を有した地域貢献集団として、取組や支援を行っている。</p>

	<p>多岐にわたるニーズへの対応は、一人だけでは困難でも、専門職の仲間と連携しチームとして活動することで、きめ細かく応えられるようになる。このような専門職チームが、小地域の中でたくさん作られていくと良いと思う。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に関連した、生活資金の枯渇や食料支援の相談が、社会福祉法人に来ている。生活保護受給者から「食料支援が終わってしまった。次の手はないか」と相談を受けたケースもあった。社会福祉法人への類似の相談は、これからも増えていくのではないかと考えている。</p>
<p>谷村委員</p>	<p>人が密集した場所でマスクをしないで会話している人を見かけたことがある。今後、新型コロナウイルス感染症を想定した、今までとは異なる新たな社会ルールを受け入れることが困難な人に対して、どのように接していくかが課題となるのではないかと考える。</p> <p>また、高齢者がタブレットを使いこなしている様子を、ニュースで見たことがある。新型コロナウイルスの影響を考えると、オンラインによるつながりの点から、今後は自治体によるタブレット活用の支援が充実していくと良いのではと思う。</p>